



**赤羽別院報 第57号**  
 発行所 真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺  
 〒444-0427 愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14  
 Tel・FAX (0563)72-2308  
 Eメール akabane\_betuin@katch.ne.jp

**講師プロフィール**  
 小谷 香示 (おだに こうじ)  
 1952年生まれ。名古屋工業大学工学研究科終了後、日本ペイント(株)中央研究所に就職。1年で退職して住職に専念。29歳から4年間岡崎教区駐在教導を兼職。37歳から9年間、岡崎教区会副議長、議長を歴任して、以降は岡崎教区第13組 明榮寺住職に専念して今日に至る。

# 信を開く



『無量寿経』の中に四つの難と云うことが記してあります。値仏の難、問法の難、修行の難、そして獲信の難の四つです。四番目の獲信の難こそ、難中の難で、これに過ぎたる難はないと説かれています。信心の問題は獲ることが難しいと取り上げられています。

普我輩深先生は浄土真宗の要といえる念仏と信心の問題を、針と糸という例えで押さえてくださっています。裁断された布は、糸によって結びつけられることにより服や褥になります。布が着物となら機能を持つには、糸のほらきが無ければ成り立ちません。では糸があれば良いのか、糸を通すには針が必要なのです。信心という針を通して初めて糸が通ります。縫い終われば針は存在しないように、形として残るのは念仏という糸だけなのです。何となく、信心と念仏の関係がわかるでしょう。念仏を本当に受け止めるには信心が大事だと云うことです。

『教行信証』では難中の難といわれる信心が、どうすれば私達に開かれるのかを問題にされています。善き人に出会うということ、人に出会うことがなければ信を開くことが出来ないと書かれています。逆に見ると、すべてがダメになるのは邪見によるとあります。すなわち私達の思いと云うことです。私たちの思いと云うと、すべてが台無しになる。善き人の仰せに出遇う、善知識に出遇うことが信を開いて行く鍵だと書かれています。人生には人との出会いがとても大きく影響します。人生にはいろんな曲がり角がありますが、その時にどういう人に出遇えたかということが重要かと思えます。よき人に出遇う、道を求める人に出遇うことが、信を開いて人に出遇うことなのだと親鸞聖人はおっしゃっておられるのです。

先日、信國淳先生の師匠である池山米吉先生の碑文がどうしても見たくて、京都に行きました。しかし既にそこには無く、移設された静岡のお寺まで行って見ました。石碑の表には「南無阿彌陀仏」と彫られていて、その裏

には「一心正念直来」と彫られていました。これは二河白道の言葉です。「汝一心に正念にして直ちに來たれ、我亦汝をまもらん」という阿彌陀様の招喚の声です。この言葉の傍に池山先生の添え書きで「オネガイダカラ、スグキテオクレヨ」と書かれていました。「お願いだから」と云う言葉は皆さんも使われるでしょうが、その時に「頼む側」が「頼まれる側」に「頼む側」と「頼まれる側」を考えたらずと、私と仏様の関係は逆になります。普通に考えると私達が阿彌陀様に向かって「お願いだから助けてください」と云います。しかし「必ず私が守るから勇気を出してこちらに来なさい」という意味の言葉は池山先生は「お願いだから早く来ておくれよ」と受け取られたのです。方向が全く逆なんです。これは私にとって衝撃でした。願いだから」とはたらきかけて下さるのです。

私自身が大変お世話になった岐阜の森智誠先生のお話の中にこれと似た表現があります。聞法会をどうしようもなすけない、ただけいなく、お同行に対して「如来様を立たせているのは誰ですか」「如来様を立たせているのは一体誰なんですか」と何度も言われました。私を案じてすとはたらきかけ、呼びかけ続けておられたる如来様は、はたらきをくださった表現で論じられたのでした。そんなことを徹庵も心にかけると無へ、

自分の思いだけで生きていた自分が、ハッと気づかされたことを、今でも鮮明に憶えています。

**真心徹倒するひと**  
 善導大師をたたえる和讃の中に「真心徹倒するひと」とは金剛心なりければ 三品の懺悔するひとと ひとしと宗師はのたまえり」という一首があります。真心徹倒、すなわち真実信心が仏心というに徹する、至り届くことの問題です。ただ分かったというのと違うのです。私の言葉で云うなら「骨の髄まで善く」「骨身に染み込む」と云うことです。そういって出遇うことですか、明らかになるのです。分かった分らない、感動した感動しなかつたとかそんな話じゃないのです。

今年の初夏、和歌山県新宮市の浄泉寺という高木顯明さんがお預かりされていたお寺へ行きました。高木顯明さんという方は、明治末の大逆事件に連座して死刑の判決を受け、直後に無期懲役として秋田の刑務所に入れられ、四年程で釈放されました。宗門はその人を擁護したのです。すべての名誉を奪って追放したのです。そのことを今から二十年程前に宗門は、間違っていたと、まさに冤罪だったとお詫びをし、そしてあらためて高木さんから学ぼうということをお話されています。

高木さんの死に求めていたかされたものは何であったのかを住職さんからお聞かせいただきました。お寺の半分以上

の門徒さんが被差別部落の方であったそうです。生活すら成り立たないような貧しい生活をしたが、人が嫌うような仕事を従事されていたようです。高木さんはその方たちと接するなかで、あらためて親鸞聖人の教え、本願念仏の教えを確かめながら、自分の差別心はなんとも許しがたい、情けないという思いで、必死に学び続けられたのです。日露戦争反対の活動に際しては、砲弾を運んで戦捷祈禱を行おうとする仏教界に対しても厳しく異議を申し立てました。当然そのような事をするれば周から浮き上がり、自分も家族も辛い目にあう事は分かっていたても、黙ってはおれんと真宗の信仰を貫かれたのです。その後、大逆事件に連座し、投獄され、獄死されたのです。

徹倒とはそういうことを言うのだと思えます。教えに出遇うとか、その心に触れるという時に、ある意味で胸が張り裂けるような、骨の髄まで突き刺さるような、そんな形で真実に出遇うことを徹倒といふのではないのでしょうか。そのはたらきかけは仏様の心が私に至り届いたということでしょう。ひとたび目覚めたならば、摩擦が生じようと、何かが失われること、全くそれに振り回されることもなく、強く生きる。まさに金剛心と云うあり方につながっていくのです。

**懺悔するひと**  
 さて、真心徹倒するひととは三品の懺悔するひとと等しいといわれています。大地に頭を擦り付けるような申し訳ない、お恥すかしいという思いを常に伴うほど、わが身が明らかにされくるのです。それが真実信心に生きるといふことかと思えます。「お願いだから早く来ておくれよ」と、私に出遇わせるために、私の心を開かせるために、様々な形で仏様は私達にはたらいてくださっているのです。そのはたらきかけに私達が導かれるように、ようやく目を覚ますことができた、信心といふのはそういうことなんです。仏様がいた仏様たちを案じ、私達もまた仏様のご苦労を想うというかたちでひとつになることを仰っているのではないかと、そのように私は受けとめておることであります。

平成30年10月16日  
 赤羽別院報 小谷香示氏法話要旨

**お願いだから**  
 先日、信國淳先生の師匠である池山米吉先生の碑文がどうしても見たくて、京都に行きました。しかし既にそこには無く、移設された静岡のお寺まで行って見ました。石碑の表には「南無阿彌陀仏」と彫られていて、その裏

には「一心正念直来」と彫られていました。これは二河白道の言葉です。「汝一心に正念にして直ちに來たれ、我亦汝をまもらん」という阿彌陀様の招喚の声です。この言葉の傍に池山先生の添え書きで「オネガイダカラ、スグキテオクレヨ」と書かれていました。「お願いだから」と云う言葉は皆さんも使われるでしょうが、その時に「頼む側」が「頼まれる側」を考えたらずと、私と仏様の関係は逆になります。普通に考えると私達が阿彌陀様に向かって「お願いだから助けてください」と云います。しかし「必ず私が守るから勇気を出してこちらに来なさい」という意味の言葉は池山先生は「お願いだから早く来ておくれよ」と受け取られたのです。方向が全く逆なんです。これは私にとって衝撃でした。願いだから」とはたらきかけて下さるのです。

私自身が大変お世話になった岐阜の森智誠先生のお話の中にこれと似た表現があります。聞法会をどうしようもなすけない、ただけいなく、お同行に対して「如来様を立たせているのは誰ですか」「如来様を立たせているのは一体誰なんですか」と何度も言われました。私を案じてすとはたらきかけ、呼びかけ続けておられたる如来様は、はたらきをくださった表現で論じられたのでした。そんなことを徹庵も心にかけると無へ、

自分の思いだけで生きていた自分が、ハッと気づかされたことを、今でも鮮明に憶えています。

**金剛心なりければ**  
 金剛心ということですが、私達はダイヤモンドの様に強

いというイメージがありますが、何ものにも負けない頑丈で強い心をもつことだと読み進めるわけですね。「教行信証」には「金剛」というはずなわち無漏の体なり」と云います。無漏というのは煩惱が無いということ、仏様といふこと、漏と云うのは煩惱の事です。漏と云うのは煩悩の事です。無漏といふのは煩惱が無いということ、仏様といふこと、漏と云うのは煩悩の事です。漏と云うのは煩悩の事です。無漏といふのは煩惱が無いということ、仏様といふこと、漏と云うのは煩悩の事です。

赤羽別院報 小谷香示氏法話要旨

**別院行事の「案内**

**声明研鑽会** しょうみよけんざんかい  
 毎月26日 午後7時より  
 ※詳細は4ページ

**除夜の鐘(初鐘)** しょうのかね(はつがね)  
 12月31日(月) 午後11時30分より  
 鐘撞きは先着順・どなたでも可  
 おしるこ・菓子等を用意しています。

**修正会** しょうしゅうえい  
 1月1日(火) 午前0時30分  
 法話 輪番 三浦 真教氏

**双全講** そうぜんこう  
 1月15日(火) 午後1時30分  
 法話 第12組 玉照寺 小栗貴次氏

**真宗講座** しんしゅうこうざ  
 第1回 1月22日(火) 午後2時~4時  
 第2回 2月26日(火) 午後2時~4時  
 第3回 3月26日(火) 午後2時~4時  
 講師 四衛 亮氏  
 ※詳細については4頁をご覧ください。

**春季彼岸会** しゅんきびがえ  
 3月20日(水) 午後1時30分  
 法話 第14組 蓮成寺 青木一範氏  
 3月21日(木) 午後1時30分  
 法話 第18組 上宮寺 佐々木照美氏

**帰敬式** ききようしき  
 帰敬の集い 3月17日(日) 午後2時  
 帰敬式 4月11日(木) 午前11時  
 ※詳細については4頁をご覧ください。

**花まつり** はなまつり  
 3月31日(日) 午後1時~4時  
 一色町仏教会が主催する、スタンプラリー  
 今年のゴールは赤羽別院です。

**晨朝法話** しのしょうほうわ(午前七時)  
 1月13日(日) 第12組 浄徳寺 松平 昌三氏  
 1月28日(月) 同 篤信寺 葦川 睦氏  
 2月13日(水) 第13組 良宣寺 伴 正氏  
 2月28日(木) 同 安休寺 雲英 真人氏  
 3月13日(水) 第14組 常徳寺 大河内 哲氏  
 3月28日(木) 同 照光寺 牧野 保氏



# 御坊さんの報恩講

## 御同朋御同行とともに

### 赤羽別院報恩講厳修

去る10月14日から三日間、猛暑の名残を感じるような少し汗ばむ位の暖かさのなか、赤羽別院において報恩講が厳修された。

報恩講とは、宗祖親鸞聖人の祥月命日(月と日の両方の当たり日)に集会である「講」を開き、その中で真宗の教えを確かめ、頂き直し、日々の暮らしと改めて向き合うための法要で、真宗において特に大切にされている法要となる。



報恩講中のお御堂

## 報恩講をお迎え 清掃奉仕・おみがき

去る10月6日午前7時、別院報恩講をお迎えするにあたり、赤羽ブロック世話会と教化センタースタッフ合同の清掃奉仕と仏具のおみがきが行われました。一同が本堂前に集合すると、輪番よりお礼の挨拶と作業分担について説明がありました。

昨年は草刈り機で雑草刈り取り作業がありました。今回は落ち葉集めが主体の作業となりました。

8組から14組を3班に編成し、境内左右と裏にある墓地の清掃分担を決めて、



竹ぼうき、チリトリ、ごみ袋を持って指定された分担場所をきれいにします。風の吹くなか、うまく落ち葉が集まらないなか、皆が根気よく作業をすすめました。お御堂内では、慣れた手つきで門徒さん達によって、仏具のおみがきが行われ、みがき終わった仏具はセンタースタッフによって元の位置に戻されました。

終了間際には大粒の雨が風に吹かれて飛んできて、清掃を終えることができず、最後に三浦輪番及び田中世話会会長よりお礼の挨拶があり、報恩講をお迎えする準備が整いました。

法話の講師は、14日の初速夜に名古屋教区正林寺の犬飼祐三子氏、二日目は岡崎教区第7組浄土寺の安藤伝融氏、三日目は岡崎教区第13組の明榮寺の小谷香示氏をお迎えして法話をいただいた。

法要では、別院の列座と崇敬区の僧侶、助音の御門徒が一緒にお勤めをし、御堂の中では『正信偈』を読む音が響き渡っていた。

真宗のお勤めは僧侶と御門徒が一緒にするのが当たり前ではあるが、他の宗派の方からすると驚かれるようで、参詣者も一緒に勤めに参加する法要の様子は、御同朋御同行を感じさせる真宗らしい法要だと改めて感じた。

また、二日目三日目にはお齋(昼食)も用意され、火鍋で味付けされたダイコン、ニンジン、シイタケに加え、ホ



お斎の準備

ウレン草の御浸し、炊き込みご飯がふるまわれた。どれもが素晴らしい美味し、参詣者の多くの方もごはんのお代わりをした。午後からの法要に備えていた。

最近ではスマートフォン等で食事や行事を撮影し、画面の中だけで完結してしまうことがあるが、みんなですのお勤めも、一人でも多くの人と画面の向こう側ではなく、お寺に身を運び、ともに体感したいと感じた。多くのお支えを垣間見る事のできた、報恩講であった。

# 謹賀新年

## 年頭挨拶



輪番 三浦 真教

新年あけましておめでとございます。

旧年中は、別院の法要並びに教化センターの諸事業に寺族・ご門徒の皆様方からの篤いご理解とご協力を賜り、有難うございました。

赤羽別院は元日の修正会に始まり、1月15日に双全講、3月20日に彼岸会、4月11日に帰敬式・報徳会が勤まります。また、1月22日、2月26日、3月22日には高山から四衝先生をお迎えして、真宗講が開催されます。

12月31日の午後11時30分の除夜の鐘撞き、元旦の0時30分からの修正会のお参りから、上記の法要等に気軽にご参加下さい。

来る4月11日には、次期門首の大谷暢裕健役がご来院されます。まだ帰敬式受式されたない方は是非この機会にお申し込み下さい。皆様がお申し込み下さい。

皆様が仏法のご縁に出会い、別院においてさまざまな方々との出会いが起これり、別院が地域の大きな力になることを願っています。

別院関係者一同皆様方のご来院をお待ちしております。

## 教化センター主幹 浅野真理子

旧年中は、赤羽別院親宣寺・赤羽地域教化センターの護持・相続のため、御尽力いただき厚くお礼申し上げます。

近年は崇敬寺院の協力はもとより、赤羽ブロック世話会による定期的な清掃、各種法要のお手伝い等積極的な活動により、別院も充実し盛上っております。

今後地域を中心とするべく別院を目指し、ご門徒への取組みをしていきたいと思っております。

「わが御坊、赤羽別院」を合言葉に一年に一度と言わず何度も足を運び親鸞聖人の教えに出遇っていただけたらと思います。どうぞ本年もご支援・ご理解宜しくお願いいたします。

## 仏祖を偲び

### 秋季彼岸会・御堂コンサート

古来、日本ではお彼岸とは季節を肌で感じ、仏祖を敬いお参りする仏事として生活に根付いている。

当別院でも、さわやかな秋風のもと、9月22日・23日に秋季彼岸会が厳修された。お勤めに続いての法話では



本多友明氏

第15組・随藏寺の安藤誠也氏と第8組・福正寺の本多友明氏よりお話をいただいた。

本多氏は『阿弥陀経』に説かれてある五濁について「私たちは毎日新鮮なものをいただながら、いつの間にか大切な家族をも喪うにしている」と、身近な例を用いての見解を示された。

また、年老いたから迷惑をかけるのではなく、人は生まれる時から迷惑をかける業縁について「存在するという身が尊いのであり、無駄のないのちなどひとつもない。次の世代にいのちのバトンを手渡すのが私達の使命である」と熱く語られた。

法話の後には、毎年恒例となっ



中村かつら氏

西尾・碧南に7会館、地域最多の会館数

# 文十鳳凰殿

西尾中央斎場・矢田斎場・一色斎場吉良斎場・幡豆斎場・碧南斎場・家族葬別邸結家(碧南)

0120-565-542 365日無休営業 24時間随時受付

人と人の絆を結び地域の未来に貢献する企業を目指しています。株式会社 クロト

## 帰敬式 実行委員会を開催

本年(2019年)4月11日に開かれる帰敬式及び報徳会にご参修予定の大谷暢裕健役をお迎えするにあたり、その執行体制を整える実行委員会が9月20日に赤羽別院にて開催された。

当日は、別院関係者・教化センタースタッフ・崇敬区内の組長や門徒会長らが集い、三浦輪番より今回の招集とこれまでの経緯についての説明を受けた。

続いて役割分担の確認と今後の進め方についての協議に入ると、活発な意見が各々交わされた。

特に、駐車場や受式者の人数制限等の問題が指摘されるなど、長時間にわたって議論され、今後の諸準備と対応が急がれる会議となった。

なお、実行委員長には責任役員である第11組・聖蓮寺住職の泉敬祐氏が、副委員長には第10組・門徒会長の田中弘氏が選出された。





御影堂門

去る10月18日岡崎教区第8組では「一般同朋の集い」を、午前には家武町の圓満寺、午後からは江原町の福浄寺と、組内2つの寺院を会所として開催された。

去る11月26日、本山報恩講の速夜法要参拝のため、第13組一行が晩秋の京都へ向かった。途中サビエリアにてトイ・レクをほさき、東山の大本願へ参拝した。一行は石堂の参道をゆっくり歩き、木々を眺めながら境内に入った。大谷祖廟は、円山公園周辺の賑やかなとは違い、静かな風情が漂っていた。

その後、智積院会館で昼食を摂り、ご本山に到着した。法要開始の時刻が近づいてい、堂内は参詣者が埋まっていた。この日のご和讃は、源信僧都を讃えた高僧和讃「専修のひとをほむるには」次第六首。「正信偈」の句切・念誦がらも宗祖への遺徳を偲んだ。法要終了後は、記念写真を撮ったり、お土産を買うなど出発までの時間を過ごさし、ご本山を後にした。

### 荒山淳氏の法話 第8組同朋の集い

去る10月18日岡崎教区第8組では「一般同朋の集い」を、午前には家武町の圓満寺、午後からは江原町の福浄寺と、組内2つの寺院を会所として開催された。



荒山淳氏

芝居を用いて聞きやすくわかりやすく法話をなされた。氏は平素の活動の一つとして、若い世代に雅楽の指導を行い、また、教区では教化センターの主任として常に人材育成をなされていく事もあり、絶え間ない豊富な知識の中で、誰にでも聞き取りやすく切れる良い口調と、分かりやすく引き受けやすい言葉を用いて講演をされた。

去る11月12日、西幡豆の祐正寺にて、第9組の報恩講が厳修されました。「正信偈」のお勧めの後、西尾市南中根町・隨嚴寺住職の安藤誠也氏より法話をいただきました。安藤氏は、ご自身が出遇われた先達の言葉をいただきながらお話を展開され「僕の大好きな祖父江文宏先生が中高生に「頑張らんでもいいよ、一所懸命おやりよ」と言っていました。最近はお爺ちゃん婆ちゃんまで頑張れ頑張れというから孫は行き場がなくなっている顔をする時がある。頑張ってない人はいないんですよ。頑張り張っている人に頑張れは一番つらいです。そこで一

### 安藤誠也氏の法話 報恩講を厳修



安藤誠也氏の法話

去る10月27日、鎌倉町の蓮光寺に於いて第12組の組門徒会研修会が開催されました。講師は、浄土真宗本願寺派(お西)教蓮寺前住職の小野正信氏です。小野氏は「お経、仏法の教えに出遇わさせていたがなかったならば、自己中心の私の姿も見ることが出来ません」ということをおっしゃられたうえで、善導大師さまが仰ってくださった「経教はこれを喩うるに鏡のごとし」という言葉を

### 第12組 門徒会研修を実施



小野正信氏

去る10月27日、鎌倉町の蓮光寺に於いて第12組の組門徒会研修会が開催されました。講師は、浄土真宗本願寺派(お西)教蓮寺前住職の小野正信氏です。小野氏は「お経、仏法の教えに出遇わさせていたがなかったならば、自己中心の私の姿も見ることが出来ません」ということをおっしゃられたうえで、善導大師さまが仰ってくださった「経教はこれを喩うるに鏡のごとし」という言葉を

### 第9組

### 声明作法の学びを深める 住職研修を実施

去る9月5日、同朋大学非常勤講師の瀬尾正寿氏を講師にお迎えし、第10組の住職研修会が行われた。研修会は組内の住職、寺族が参加し、報恩講の儀式・声明の作法を中心に長時間にわたって学びを深めた。

報恩講は第三代会覚上人が一二九四(永仁2)年、親鸞聖人三十三回忌を勤めるにあたり「報恩講式(私記)」を著し、聖人の徳を讃えたことにより始まった。瀬尾氏は、そのことよって聖人は大谷家の一先祖ではなく、宗祖として仰がれることになった。報恩講は報恩謝徳と同朋の集まりの場であると語られた。

### 第10組

### 感話や坊さん漫才も 報恩講・門徒会研修

第14組では、毎年各寺院の報恩講に先立ち、組門徒会員の研修も兼ねて、組報恩講を厳修している。本年度は10月4日棚尾本町の安専寺を会所に、一同に会して賑々しく勤められた。

お勧めは、各寺院の報恩講大速夜は、「正信偈真四句目下、念仏講海五、和讃五十六億七千万、五遍反回向願以此功德」で動められ、各寺院の報恩講への気持を高めるかのように、皆が大きな声でお勧めした。



えしんりょうの漫才

お勧めの後は、金原誓氏の門徒感話があり、真宗門徒として自身がどのように仏法聴聞をしたのか等、ご自身の関法の姿勢を話された。

**MINATO**

住宅・ビル・工場 電気設備工事  
太陽光発電設備工事

株式会社 **ミナト電機**

〒445-0082 西尾市ッ町町新御堂53-1  
http://www.minatodenki.jp

イナ ミナト  
(0563) 57-3710

**ミナト電機**

**茶房AOI**

製茶 茶舗 2F

安城西尾IC 小島江原IC

お客様駐車場 安製茶

道光寺南 小島インター

車次町

道東カフェ「茶房AOI」

金、土、日(月曜日の祝日も営業)  
10:00 ~ ラストオーダー 17:30

※第4日曜日は店舗・カフェ共に定休日

愛知県西尾市上町上屋敷7番地  
TEL 0563-57-2570  
E-mail info@aoiseicha.co.jp  
URL http://www.aoiseicha.co.jp/



### 新しい形の話し合い 第14組女性門徒会研修



9月25日、西方寺にて、第14組坊守会主催による「坊守・女性門徒会交流会」が開かれた。16名の女性門徒会員と坊守14名がそれぞれ連れ立って集合した。6グループの机の上には、模造紙が大きく広げられ、自由に書き込みできるように準備されていた。又、話が弾むように菓子や飲み物も沢山用意されていた。

午後1時半、警敏郎氏(掛川市・蓮福寺住職)のご指導の後、寺をとりまく意識向上をテーマに意見交換する。新しい形の話し合い方法がとられた。「話とはどんな脱線して下さ」と言われていた。話し合いのやりかたも、思い思いの話を交えながら、終始和やかに活発に意見が交わされた。

終了後の参加者は、笑顔もそのまま帰途につかれ、今後の活動に期待の膨らむ会であった。



### お御堂再建へ

### 妙専寺御本尊動座式

元号が改まる直前の師走の二日、第10組妙専寺に於いて御本尊動座式が、宗祖御正報恩講御満座の後、執り行われました。

お御堂は、遡ること一六九八(元禄11)年に建立以来、間法の根本道場として御同行は勿論、地域の方々に親しまれてきました。

そのお御堂が、来たる二〇二一年三月27日・28日の両日に、宗祖親鸞聖人七百五十回忌法会の記念事業として、三百二十年の時を経て再建されるにあたり、この日、御本尊の動座式が執り行われました。

御本尊を唐櫃(奥)に移して、列を組み仮御堂に奉安され、皆でお勤めし、改めて、手をあわせました。

当山の報恩講にお参りする



仮御堂へ移られる

と、必ずお顔を覚えて下さるお世話方は「ゴエンさん、お寺ってどんな所だと思ってるね、人にはいい時もそうでない時もいろいろあるけど、どんな時でも書ける(依れる)ところが、お寺だと思えば」とニコニコしながらお話しして下さいました。

新たな時が、刻まれます。

- ◆講題** 「お念仏の救い」
- ◆日時**
- 第1回 1月22日(火)
  - 第2回 2月26日(火)
  - 第3回 3月26日(火)
  - 各日共 午後2時~4時
- ◆受講料** 1回 500円
- その都度受付にお支払ください。

### 真宗講座

### 開催のお知らせ

赤羽別院では、次により真宗講座を開催します。

ともに聴聞いたします。

**◆テーマ** 「歎異抄に学ぶ」

**◆講師** 高山教区不遠寺住職 青少幼年センター幹事 四衛亮(よしつじあきら)氏

### 中啓を落とすの？

「お寺さんは法要で座るときになぜ扇子を落とすのか。あれは行儀が悪い様に見える。御門徒の方よりこの様なご質問をいただきました。理由はともあれ内陣出仕作法の事書かれています。書物にも中啓(扇子)を落とすと書かれています。今の時代、手に有るものをわざと落とすとどういう行為自体、行儀が良い様には映らないかもしれません。以前耳にしたお作法の先生の言葉が領ける内容でしたのでご紹介いたします。

「昔は、今の様に堂内に明かりが溢れている時代と違い、わずかな明かりの中で式を進行しなくてははいけません。式を司る裏方も薄暗い中では堂内を目で確認することが困難な事から、出仕者が自ら音を出すことで、着席の合図を送り、式を滞りなく進行させるお手伝いのため」といってお言葉でした。

本堂の正解は制定された方にしか分かりませんが、数百年前の物が無い時代より引き継がれて来た作法には、先輩の知恵と配慮が随所に感じられます。法要とは今まで大切に守ってきた先輩の知恵を感じられる場でもあるのだと思います。



中啓

### 帰敬式を

### 受式しませんか！

帰敬式とは「釋」の字を冠した二字の法名を賜り、仏様の教えを聞き、仏法を依りどころとして生きる者となることを明らかにする。

この帰敬式は「おかみそり」とも呼ばれ、ご本尊の前でおかみそり(剃刀)が三度、頭にあてられます。別院では、本年も本山鎌役の剃刀により帰敬式を執り行います。

あなたも受式しませんか。

**◆期日** 平成31年4月11日(木)

**◆場所** 赤羽別院 御堂

**◆料** 真細金 二万円

詳細は、赤羽別院またはお手次寺院にお問合わせ下さい。

### 第20回御坊俳壇・川柳

**俳句(順不同)**

報恩講間近や寺の溝波、  
追善の香青く初時雨  
母の忌に寄りて長居の小春緑  
稲穂さえ御堂に向いておじぎする  
新米の香りも添えて御仏供飯  
大振りの寺の掃粉木とろろ汁  
句牌のある古刹へ患方諸てかな  
ゆたんぼと心ひとつに眠り落つ  
手折り来て仏花に足せり野紺菊  
庭先に植えて妻遊く彼岸花

**川柳(順不同)**

去年今年歳相応の認知症  
仏華さえインスタ映えを気にしてる  
婆さんは孫に手引かれ保育園

**お知らせ** 定例の第21回御坊俳壇・川柳の締切は2月5日です。奮って応募下さい。

親鸞聖人をはじめ、お念仏の教えに生きられた先達の恩徳に感謝し報いることが報恩講です。「感謝感謝、ありがたいたい」とお勤めされる方もいれば、「準備がたいへんて気が重く」「住職に頼まれたから参った」「当番になったから仕方なく来た」という声が聞こえてくることもあります。しかし、このようなかたちであっても、そこに関わる全ての方々に、報恩講が動まり、お念仏の教えが伝えられてきました。多くの方が関わり、脈々と動まり、伝わってきた教えが、他ならぬ私ひとりのための教えであったと頭かぬる時、自らもまた報恩講をお勤めせずにはいられないという想いがうまれるのではないのでしょうか。

### 声明研鑽会のお知らせ

赤羽地域教化センター儀式部では、声明作法、儀式執行の姿勢をあらためて確認し、学ぶための場を、親鸞聖人の御命日をこ縁として毎月28日に左記のとおり開きます。

**◆日時**

- 1月28日(月) 2月28日(木)
- 3月28日(木) 4月28日(日)
- 5月28日(火) 6月28日(金)
- 各日共 午後7時~8時30分

**◆講師** 赤羽別院列座 織田 顕慶 氏

**◆持ち物** 大谷声明集上 昭和法要式 中陰動行集

**◆服装** 対象 輪袈裟 念珠

**◆住職** 寺族 有僧籍

**◆会費** 無料

是非ご参加ください。ご案内申し上げます。

### おめでどう

法務大臣感謝状  
全国教師連盟総裁感謝状  
全国宗教連盟理事長感謝状を授与

**第8組安樂寺住職** 伊奈 祐諦氏

秋の叙勲  
旭日双光章受章  
第10組 門徒会長 田中 弘 氏

「本願寺教団展開の基礎的研究―戦国期から近世へ―」の論文により、大谷大学より文学博士の学位を授与

**第14組 蓮成寺住職** 青木 馨 氏

### 赤羽御坊を

**読みませんか**

本紙「赤羽御坊」は赤羽別院崇敬区内の寺院より配布され、別院近隣の門徒にお読みたいと思っていますが、崇敬区外への頒布も行っています。郵送をご希望の方は赤羽別院までご連絡下さい。

※連絡先は1ページ

### 披露

玄関幕補修 石川 鴻英 様

**赤羽御坊新聞懇志**

- 第10組 妙専寺同行衆 様
- 第10組 巖 西 寺 様
- 第17組 明 法 寺 様

貴重なご懇志をありがとうございます。

### 編集室

本号は例年の如く、赤羽崇敬地域の報恩講の記事を掲載しました。取材のため各組・各寺院の報恩講にお参りをさせていただくと、一人でも多くの方に聴聞をしていただきたたいと願い、お寺によってさまざまな工夫がされていることを目にします。そして、それに伴いすることお目に関わる方が、報恩講をお勤めするためにご尽力されているのだということを感じることがあります。

今日まで報恩講をお勤めされてきた方々は、どのような想いを抱いておられたのでしょうか。

親鸞聖人をはじめ、お念仏の教えに生きられた先達の恩徳に感謝し報いることが報恩講です。「感謝感謝、ありがたいたい」とお勤めされる方もいれば、「準備がたいへんて気が重く」「住職に頼まれたから参った」「当番になったから仕方なく来た」という声が聞こえてくることもあります。しかし、このようなかたちであっても、そこに関わる全ての方々に、報恩講が動まり、お念仏の教えが伝えられてきました。多くの方が関わり、脈々と動まり、伝わってきた教えが、他ならぬ私ひとりのための教えであったと頭かぬる時、自らもまた報恩講をお勤めせずにはいられないという想いがうまれるのではないのでしょうか。